

令和3年度年間授業計画

教科:地理歴史 科目:世界史A 校内科目名:世界史A
 教科担当者: 西田 玲奈

対象年次:1

2単位

使用教科書・教材

教科書

「新版 世界史A」改訂版(実教出版)

補助教材

「ニューステージ 世界史詳覧」(浜島書店)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 1世界史へのいざない 2諸地域世界の特質 ・東アジアの文明 ・南アジアの文明 ・西アジアの文明 ・ヨーロッパの文明 3諸地域世界の交流 4世界の一体化とヨーロッパ 5アジア諸国の繁栄 6近世ヨーロッパの成長 7近代の欧米社会 ・産業革命と資本主義の確立 ・アメリカ合衆国の発展	○世界の諸地域で発展した文明の形成過程や特質を理解させる。 ○陸と陸のネットワークを中心に諸地域世界の交流を理解させる。 ○近世ヨーロッパの成長を理解させる。 ○ヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化を理解させる。 ○産業革命による経済や社会の変化を理解させる。 ○アメリカ合衆国の独立やフランス革命を通して大西洋世界の政治的変動を理解させる。 ○自由主義・国民主義の高まりと国民国家の形成を理解させる。	1諸地域世界の特質や近世史・近代史の基本的内容を理解することができたか。 2問題意識を持って歴史をみることができたか。 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	22
2 学期	<2学期> 8ヨーロッパの進出とアジア ・アジア諸国の変貌 ・日本の開国と近代化 9現代社会の特徴 ・第二次産業革命 ・国際的な移民の増加 ・大衆社会の出現 10帝国主義とアジアの民族運動 11二つの世界大戦 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・第一次世界大戦後の国際秩序 ・世界恐慌とファシズムの台頭 ・第二次世界大戦	○アジア諸国の支配体制の動揺と伝統文化の変容を理解させる。 ○日本の近代化の過程を理解させる。 ○科学技術の発達、企業と国家の巨大化、国家の役割増大による国民統合の進展、国際的な移民の増加、大衆社会の出現などから現代社会の特徴を理解させる。 ○帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と性格、戦争がもたらした世界の変化について理解させる。	1近世・近代史、現代史の基本的内容を理解することができたか。 2問題意識を持って歴史をみることができたか。 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	28
3 学期	<3学期> 12冷戦の時代 ・冷戦のはじまり ・第三世界の登場 ・1960年代の世界 ・冷戦の終結 13グローバル化する世界 ・市場経済のグローバル化 ・地域統合の動き ・地域紛争の頻発 ・地球社会の歩みと課題 ・持続可能な社会への展望	○冷戦の展開と日本・西欧諸国の動向を理解させる。 ○アジア・アフリカ諸国の独立とアジア・アフリカ諸国が抱える問題、核兵器問題や南北問題を理解させる。 ○市場経済のグローバル化、EUをはじめとする地域統合の動き、世界各地で頻発する地域紛争を理解させる。 ○環境や資源・エネルギーをめぐる問題、持続可能な社会の実現について考えさせる。	1冷戦の展開や現代の世界を取り巻く諸問題についての基本的内容を理解することができたか。 2問題意識を持って歴史をみることができたか。 定期試験、提出物、授業態度等を総合的に判断して評価する。	20
			合計	70

令和3年度年間授業計画

教科:地理歴史 科目:日本史B 校内科目名:日本史B
 教科担当者: 白土 直人 瀬原 大樹

対象年次:2

3単位

使用教科書・教材

教科書

「詳説日本史B」(山川出版社)

資料集

「新詳日本史」(浜島書店)

配布プリント等

問題集「ステップアップ日本史」(啓隆社)

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> 1 原始・古代 (1)日本文化のあけぼの (2)律令国家の形成 (3)貴族政治と国風文化 2 中世 中世社会の成立 武家社会の成長 3 近世 幕藩体制の確立 幕藩体制の展開	原始・古代か近世前期までの日本の歴史を、政治・外交・社会経済及び文化史全般にわたり総合的に学習させる。とくに、年間を通じて近現代を重視して、基礎的な知識を身につけ、理解力・応用力を育てる。	評価の観点 1 歴史的事象の基礎的・基本的知識の理解 2 歴史資料(特に史料)の読解 3 日本史を積極的に学ぶ姿勢 評価の方法 定期考査、授業態度、課題提出状況等を総合的に評価する。	33
2 学期	<2学期> (3)幕藩体制の動揺 4 近代 (1)開国と幕末の動乱 (2)明治維新と富国強兵 (3)立憲国家の成立と日清戦争 (4)日露戦争と国際関係 (5)近代産業の発展 (6)第一次世界大戦と日本 (7)ワシントン体制と政党政治 (8)恐慌の時代 (9)軍部の台頭	近世後期から近代までの日本の歴史を、政治・外交・社会経済及び文化史全般にわたり総合的に学習させる。明治維新をとおして急速に近代化を遂げていった過程を通史的に捉えさせる。また、小テストなどを行い、知識の定着を図る。	評価の観点 1 歴史的事象の基礎的・基本的知識の理解 2 歴史資料(特に史料)の読解 3 日本史を積極的に学ぶ姿勢 評価の方法 定期考査、授業態度、課題提出状況等を総合的に評価する。	42
3 学期	<3学期> (10)第二次世界大戦と日本 5 現代 (1)占領下の日本 (2)高度成長の時代 (3)現代の世界と日本	昭和史を学習するにあたり、軍部による政治的な権力掌握の経緯をとらえさせる。学習の手だてとして、調べ学習や発表の活動時間を設け、学びあいを通じて他者理解や表現力を育ませる。	評価の観点 1 歴史的事象の基礎的・基本的知識の理解 2 歴史資料(特に史料)の読解 3 日本史を積極的に学ぶ姿勢 評価の方法 定期考査、授業態度、課題提出状況等を総合的に評価する。	30
合計				105

令和3年度年間授業計画

教科: 公民 科目: 政治・経済 校内科目名: 政治・経済
 教科担当者: 小林 正伸 西田 玲奈

対象年次: 2

2単位

使用教科書・教材

教科書

「政治・経済」(東京書籍)

資料集

「最新政治・経済資料集2021」(第一学習社)

配布プリント等

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学期	<1学期> <中間考査まで> 1 現代の政治 (1) 民主政治の基本原則 ① 民主政治の成立 ② 法の支配 ③ 基本的人権の確立 ④ 現代の民主政治 ⑤ 世界の主な政治体制 (2) 日本国憲法の基本原則 ① 日本国憲法の制定と基本原則 <期末考査まで> ② 基本的人権の保障 ③ 平和主義 (3) 日本の政治機構 ① 国会と立法 ② 内閣と行政	民主主義に関する理解を深め、現代における政治について客観的・多角的・総括的に理解できるようにする。また、それに関連する諸事象、諸問題を扱うことによって、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。	1 授業への取り組み及び意欲 2 基本的な知識・事柄の理解 3 時事問題への関心及び理解 4 定期考査の合計点 5 小テストの合計点 6 課題・プリントの内容と提出状況	22
2 学期	<2学期> <中間考査まで> ③ 裁判所と司法 ④ 地方自治 (4) 現代政治の特質と課題 ① 戦後政治と政党 ② 選挙と政治意識 ③ 世論と政治参加 <期末考査まで> (5) 現代の国際政治 ① 国際関係と国際法 ② 国際社会の組織化と変容 ③ 国際政治の動向 ④ 国際政治の課題 ⑤ 地球環境と資源・エネルギー問題 ⑥ 国際社会での日本の役割	日本における政治体制と、世界における国際関係などについて広い視野から考察できるようにする。平和や安全な社会について、自ら考え意見を持てるようにする。	1 授業への取り組み及び意欲 2 基本的な知識・事柄の理解 3 時事問題への関心及び理解 4 定期考査の合計点 5 小テストの合計点 6 課題・プリントの内容と提出状況	28
3 学期	<3学期> 2 現代の経済 (1) 現代の資本主義経済 ① 資本主義体制の成立と発展 ② 現代経済の特質 (2) 現代経済のしくみ ① 経済主体と経済の循環 ② 生産のしくみと企業	現代における経済について、基本的なものの見方考え方を培う。経済に関連する諸事象、諸問題を扱い、経済に関する意欲を高める。	1 授業への取り組み及び意欲 2 基本的な知識・事柄の理解 3 時事問題への関心及び理解 4 定期考査の合計点 5 小テストの合計点 6 課題・プリントの内容と提出状況	20
合計				70

令和3年度年間授業計画

教科:公民 科目:倫理 校内科目名:倫理
 教科担当者:小林 正伸 関矢 勝秀

対象年次:3

2単位

使用教科書・教材

教科書

「高校倫理」(実教出版)

資料集

「テオローリア 最新倫理資料集」(第一学習社)

配布プリント等

	指導内容	指導目標	評価の観点・方法	予定授業時数
1 学 期	<1学期> <中間考査まで> 1 青年期の発達とその諸問題 (1) 青年期の特徴と心理 (2) 現代の青年と自己探求 (3) 欲求と適応機制 (4) アイデンティティの模索と青年期の課題 <期末考査まで> 2 源流思想 古代ギリシアの哲学・思想 キリスト教の成立と展開(イスラム教含む)	・哲学・倫理・宗教など先哲の思想を学ぶことを通じて今の自分を見つめ直させる。 ・社会の中で如何に生きるべきかというテーマを柱に在り方生き方について思索させる。 ・現在と将来に向けてより豊かな人生を生きるための思索を深めさせる。	1 興味・関心を持ち、意欲的に授業に臨んでいるか。 2 基本的な概念を理解し、知識として身につけることができたか。 3 身につけた知識を利用して、自己を省み、思索を深める態度が形成されているか。 4 上記1～3を定期考査、提出物、発表状況、出席状況を踏まえて評価する。	22
2 学 期	<2学期> <中間考査まで> 古代インドの思想(仏教の成立と展開) (4) 古代中国の思想(儒家思想・道家思想他) <期末考査まで> 3 近現代の西洋思想 (1) ルネサンスと宗教改革 (2) 近代科学の成立とその考え方 (3) モラリストと啓蒙主義 社会契約説と市民革命 (5) ドイツ啓蒙主義と観念論	・哲学・倫理・宗教など先哲の思想を学ぶことを通じて今の自分を見つめ直させる。 ・社会の中で如何に生きるべきかというテーマを柱に在り方生き方について思索させる。 ・現在と将来に向けてより豊かな人生を生きるための思索を深めさせる。	1 興味・関心を持ち、意欲的に授業に臨んでいるか。 2 基本的な概念を理解し、知識として身につけることができたか。 3 身につけた知識を利用して、自己を省み、思索を深める態度が形成されているか。 4 上記1～3を定期考査、提出物、発表状況、出席状況を踏まえて評価する。	28
3 学 期	<3学期> (6) イギリス功利主義 (7) 社会主義の思想 (8) 実存主義思想	・哲学・倫理・宗教など先哲の思想を学ぶことを通じて今の自分を見つめ直させる。 ・社会の中で如何に生きるべきかというテーマを柱に在り方生き方について思索させる。 ・現在と将来に向けてより豊かな人生を生きるための思索を深めさせる。	1 興味・関心を持ち、意欲的に授業に臨んでいるか。 2 基本的な概念を理解し、知識として身につけることができたか。 3 身につけた知識を利用して、自己を省み、思索を深める態度が形成されているか。 4 上記1～3を定期考査、提出物、発表状況、出席状況を踏まえて評価する。	20
			合計	70